

立命館土曜講座

<公開講演会>

企画:白川静記念東洋文字文化研究所

世界の漢字研究

2019年9月28日(土) 開場 13:00 14:00~17:00

会場 立命館大学衣笠キャンパス

以学館 IG101(1号ホール)

聴講無料
事前申込不要

日本以外にも漢字を使う国と地域があり研究者がいる。ノルウェイの何莫邪教授は世界的に著名な漢字の研究者である。馬では到達できず、船が必要な日本にも漢字は広まった。そして漢字をまねた国字を作るようになった。ベトナムでも国字が作られ、字喃という。台湾はじつは臺灣と書かねばならない。韓国はハングルを作ったが、漢字はどうなったのだろうか。この文章の太字をあわせると邪馬臺國となる。臧克和教授はこれを考察。宋、范曄撰『後漢書』東夷伝、倭では邪馬臺國だが、おなじみの晋、陳壽撰『三国志』魏志、東夷、倭人では邪馬壹國で、「臺」ではなく「壹」なのである。

漢字と文化

朱岐祥 台湾 東海大學中文系教授

古代中国の言語学の方法論を探る

何莫邪 Christoph Harbsmeier ノルウェイ コペンハーゲン大学教授

ベトナムの文字を民族中心主義から分析する

阮俊強 ベトナム 越南社会科学翰林院漢喃研究院教授

国号「日本」の「本」はどのような意味か

大形徹 日本 大阪府立大学教授・立命館大学客員教授

東アジアにおける文字を中心とする文明の根源

河永三 韓国 慶星大学教授・韓国漢字研究所長

中国から見た邪馬台国論争

臧克和 中国 華東師範大学終身教授・世界漢字学会会長

張莉 日本 大阪教育大学准教授・立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所客員研究員

司会

主
共
協

主催:立命館大学 衣笠総合研究機構
主催:白川静記念東洋文字文化研究所、立命館孔子学院
協力:世界漢字学会

お問い合わせ:土曜講座事務局TEL:075-465-8224
定員:370名
発表言語:日本語,中国語(同時通訳あり)

R
RITSUMEIKAN